

授業科目 目コード		授業科目名	余暇社会学			担当教員名	棚山 研
科 目 区 分			配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科
スポーツライフ分野	専門選択科目		2	後期	2		現代社会学科
公民専攻コア科目	公民専攻選択科目						
授業のテーマ・概要							
「人間と社会にとっての余暇の意義について一労働との関係も含めて」 余暇の意義について、主に「労働のための休息时间」、および「日本（人）における余暇の位置づけ」について講義する。							
授業の目的・到達目標							
第1に日本における余暇の問題は労働時間問題であるということを理解してもらう。次に日本における余暇活動の実態、レジャー産業や余暇政策の実態を知ってもらう。また、新しい余暇活動の傾向やヨーロッパの「余暇社会」の実情を通じて、人間と社会にとっての余暇の意義を理解してもらう。							
授業内容・授業スケジュール							
回数	項目	内容（予復習指示等を含む）				使用資料（プリント等）	
1	授業ガイダンス	「カネを取るか、ヒマをとるか??」				プリント	
2	余暇の歴史①	昔の人はどれくらい働いていたか				プリント	
3	余暇の歴史②	社会政策とフォーディズム				プリント	
4	労働時間と余暇①	休息としての余暇				プリント	
5	労働時間と余暇②	現代日本の労働時間				プリント	
6	労働時間と余暇③	日本の労働時間制度				プリント	
7	労働時間と余暇④	労働時間の国際比較（人生時間と余暇時間）				プリント・ビデオ	
8	労働時間と余暇⑤	なぜ死ぬまで働くのか？				プリント	
9	余暇活動の現状①	全体的傾向（活動実態・意識）				プリント	
10	余暇活動の現状②	レジャー費用と余暇市場				プリント	
11	余暇活動の現状③	レジャー産業から見た日本人の余暇				プリント・ビデオ	
12	余暇活動の現状④	「リゾートブーム」と「グリーンツーリズム」				プリント	
13	「余暇社会」にむけて①	新しい余暇活動のトレンド				プリント・ビデオ	
14	「余暇社会」にむけて②	「社会性余暇」や「スローな公共事業」				プリント・ビデオ	
15	「余暇社会」にむけて③	西欧の「余暇社会」とワークシェアリング					
	試験	実施する					
履修上の注意・関連科目等							
学生との双方向型授業にするために、感想文や簡単な出題を基本的に毎回行う。出席チェックの代わりとする。							
成績評価基準							
項 目	内 容					割合	
平常点	出席6回以上 1回につき2点。5回以下は0点。遅刻はマイナス1点。提出物の未提出や白紙提出、受講態度が著しく悪い場合は0点。					20%	
期末試験等						80%	
小テスト						%	
レポート						%	
その他	受講人数によって座席指定制をとる場合がある。 受験無資格制はとらない。受講した全員に受験資格あり。 プリントの音読を依頼することがあるので協力すること。					%	
教科書・参考書及び辞典等							
〔テキスト〕使用しない							
〔参考書・その他〕適宜紹介する							